

2014 韓国社会福祉学会春季学術大会報告

第3期国際学術交流促進委員会委員長 門田 光司 (久留米大学)

2014年4月25日、26日の両日にわたり、韓国社会福祉学会が釜山のコネベンション・センター-BEXCOで開催された。このBEXCOは、2002年日韓合同開催のワールドカップの抽選会場の場所として知られている。

日本からの参加は、役員・理事2名(岩田正美会長、門田光司)と国際学術交流促進委員(金圓景委員)、そして韓日学術交流シンポジウムのシンポジスト2名(岡部卓委員、布川日佐史委員)、自由研究発表者2名であった。

大会前日の4月24日には日本代表团公式歓迎懇親会が催され、韓国側から金ヨンボン会長、伊ヒョンスク首席副会長、金シンヨル国際交流委員長、チョン・ヒギョン事務局長が参加され、心温まる歓迎を受けた。

4月25日(第1日目)は、11:00~12:00に日韓社会福祉学会役員定期集会をもち、①2014年度日本社会福祉学会秋季大会(早稲田大学)国際学術シンポジウム及び自由研究発表の公募要請について、また②2014年10月20日に期限をむかえる日韓研究交流覚書の延長について意見交換がなされた。午後より開会式が開催され、金会長より日本側の学会役員を紹介がなされた。午後からの自由研究発表では、日本より高橋 明美氏(明星大学)が「韓国老人長期医療施設における社会福祉士の業務実態」について、崔 仙姫氏(首都大学東京大学院)が「介護保険制度における市場化の日韓比較研究—介護保険機関への事例調査を通して—」について発表を行った。そして、18:00より開始された懇親会では、岩田会長が挨拶をされた。

4月26日(第2日目)の9:30~12:30には、韓日学術交流シンポジウムが開催された。今回のシンポジウムのテーマは「勤労貧困層(workingpoor)に対する社会福祉政策と実践」であるが、主題発表1では李サンウン教授(崇実大学)が「韓国におけるワーキングプワ支援政策の現状と評価」、岡部卓教授(首都大学東京)が「日本における貧困・低所得者対策の動向」について報告された。主題発表2では、白ハギョ



ン教授(江原大学)が「自活事業と地域社会」、布川日佐史教授(法政大学)が「貧困・低所得者への自立・就労支援の課題」について報告された。4名の報告後、韓国側からヨ・ヨンボン教授(全北大学)と黄ミョン教授(釜山カトリック大学)の講評がなされた。両者とも日本におけるワーキングプワ対策に関する関心の高さを述べられた。

今回、開会式前には、旅客船「セウォル号」の沈没事故にて亡くなれた方々への黙祷が捧げられた。また、学会役員の方々は行方不明者の生還を願う黄色いリボンをつけていた。このような状況の中でも私たちが歓迎していただいた韓国側の役員の方々に感謝するとともに、沈没事故で亡くなれた方々に心よりご冥福をお祈り申し上げます。